

今年 65 歳になる団塊の世代の私ですが、50 代の頃からモノの名前が直ぐに出て来ず、「あれ」「これ」と言う機会が多くなってきました。最近では夫婦とも「あれ」「これ」で通じる、言葉が要らないツーカーの会話で成り立っています。

今回は、「シルバー川柳」(2012 年、ポプラ社発行)の一部をご紹介しますが、笑える人は、そろそろボケ仲間です。

「誕生日 ローソク吹いて 立ちくらみ」

「お迎えは どこから来るのと 孫が聞く」

「歩こう会 アルコール会と 聞き違い」

「立ちあがり 用事忘れて また座る」

※ 私も冷蔵庫を開けた瞬間、何を取りに来たのか忘れることも。

「探しもの やっと探して 置き忘れ」

※ あるある。

「万歩計 半分以上 探しもの」

「へそくりの 場所を忘れて 妻に聞く」

※ そこまではなりたくない。

「何回も 話したはずだが 「初耳だ！」」

※ 喧嘩の種にもなりますが、ご本人はいつも新鮮なことに感じているかも。

「自己紹介 趣味と病気を ひとつずつ」

「クラス会 食後は薬の 説明会」

※ ある年配(70代)の摸合いでも、最後は薬の品表会になるようです。

「手をつなぐ 昔はデート 今介護」

※ 年には勝てないといいますが、楽しく元気で過ごしていきたいものです。

(たまなは)